

村田製作所の知財覇権戦略：特許報奨2.5倍がもたらす「技術の防壁」

特許報奨制度の劇的な進化

報奨金規模を10年間で2.5倍へ拡大

2.5x

2015年度を基準として概算水準を大幅に引き上げ、画期的な発明には最大100万円のインセンティブを支給。2015年度 現在



業界初となる「出願前インセンティブ」の導入
2023年度より、特許出願の書類作成前の「アイデア創出段階」で奨励を付与し、有償技術の最適な知財化を促進。



「量から質」への大胆なパラダイムシフト
単なる出願件数の追求ではなく、他社が因襲不可能な「基本特許」と「周辺特許」を組み合わせた多層的な網の構築を奨励。

激化する中韓メーカーとの知財戦争

ライバル「サムスン」との戦略的対比



村田製作所：特許網構築 サムスン電機：「オープン戦略」
サムスン電子も報奨金を最大3倍に増額。サムスン電機はサプライヤーへ特許を開放する「オープン戦略」で対抗。



中国での特許侵害訴訟が「0件」から「10件以上」へ
過去10年で姿勢を急転換。中国系メーカーに対し、積極的に法的権利を行使する「攻めの知財」へとシフト。



Maxscend社に対する多層的な訴訟戦略
RFフィルター技術において、構造設計からシステム全体まで全ての階層で特許を押さえ、競合の参入を法的に封鎖。

需要を牽引するメガトレンド

電気自動車 (EV) はスマホの10倍のMLCCを搭載

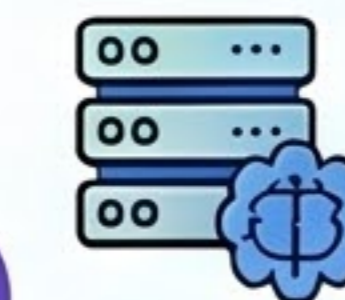


約1,000個

10,000個以上

次世代デバイスにおけるMLCC搭載数の比較

| デバイスタイプ | MLCC搭載数(目安) |
|--------------|-------------|
| ハイエンドスマートフォン | 約1,000個 |
| 電気自動車 (EV) | 10,000個以上 |



AIサーバーとデータセンターの急拡大
生成AIの普及により、大容量かつ高温環境下で安定稼働するハイエンドMLCCの需要が供給能力の2倍に達している。



二桁台の価格引き上げを支える「知財の堀」
圧倒的なシェアと特許網による技術の囲い込みが、供給逼迫時における強力な価格交渉力の源泉となる。

リスクマネジメントと経済安全保障



職務発明訴訟リスクの回避
韓国での巨額補償請求訴訟(数十億円規模)を教訓に、手厚い稟報制度で優秀なエンジニアのリテンション(引き留め)を回す。



日本特許法第35条への適合
「相当の利益」を透明かつ高いレベルで提供することで、潜在的な法務リスクを根絶し、特許権の会社帰属を確実にする。